

2 学力向上アクションプランの具体例

横浜市立緑園東小学校 令和3年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
(知) 自分の思いをもち、自分の力で積極的に学び続ける子を育てます。 (徳) 規範意識をもち、自分も相手も大切にし、自信と思いやりのあふれる子を育てます。 (体) 生命を尊ぶ気持ちをもち、自らの健やかな体をつくる子を育てます。 (公) 学校や地域に親しみ、まちの一員として積極的にかかわる子を育てます。 (開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、広い視野をもち、世界とつながろうとする子を育てます。	主体的に自分の思いを表現していく力 (岡津中ブロック) 「健全な自尊感情の向上」 ・自己教育力 ・人間関係力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
(1) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。 (2) 子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。 (3) 教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。 (4) 学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校をつくります。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①個々の思いを大切に、ゴールを明確にした学習課題の設定、学習プロセスを意識した学習を通して情報活用能力、言語能力、表現力を高める②ICTの有効な活用や言語活動の工夫、協働的な学習を通して新たな価値の創造をめざす。④各教科の横断的な学習を創造し、単元構成の工夫を図る。(主たる単元を明確にして年間計画を立てる。)⑤どの学力層にも応じた指導の手立てとしてワークシートやヒントファイル等の手立てを講じていく。(個別最適化の学び)
担当	学力向上部

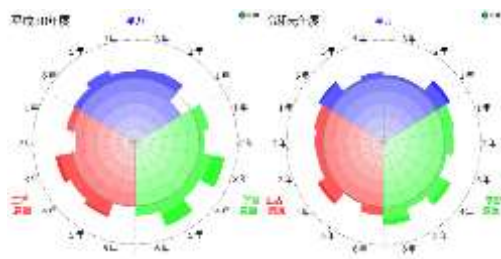
2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に安定した力をつけてきており、その力を用いて相手意識をもって言葉を使う事が次の課題である。
- 算数科：数学的思考方も含めて向上傾向にあるが、苦手意識をもつ児童が一定数いる。
- 社会科：学びのプロセスに沿った学習が定着してきており、多様な資料を用いた課題解決が概ねできている。
- 理科：どの学年もさらなる授業改善が必要である。

(2) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

経年変化の状況から、自分の課題を設定し、協働的に課題解決をする授業づくりの成果が出てきていることがわかる。一方、上記のように特定の教科に対する苦手意識が根強く、今後一層、課題に対する考えを、子ども一人ひとりが明確にもつように指導を進めていきたい。



3 令和3年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	言語能力 情報活用能力 問題発見・解決力 自分づくりに 関する力	○教科横断的な視点を、低学年のうちから子どもたちが意識できるような授業改善に取り組む。ワークシートに英語を併記したり、国語の記述を各教科に生かしたりと、汎用的能力の育成を第一に考える。 ○国語科では、身近なことや経験したことなどから紹介したいことを選んで話したり、互いの話に関心をもって聞いたりする姿勢を育む。	○個別最適な学習のために、ICT を授業に積極的に取り入れる。デジタル教科書の活用や、ロイロノートの活用を進めていく。
2年	グローバル化の 中で生きる力	○国語では、人とのかかわりの中で、思考力や表現力を互いに高め合えるような学習をして、豊かな語彙を身に付ける。 ○算数では、具体物を用いた活動を通して、数・量・図形の感覚を身に付け、日常生活や学習に活用しようとする態度を養う。	○自分から表現しようとする姿を大切にして、様々な場面で活躍した児童を褒めて自己肯定感を高められるようにする。
3年	言語能力 情報活用能力 問題発見・解決力 自分づくりに 関する力	○国語科では、必要なテキストを集めて読み込み、わかったことを文章に表すようにする。 ○算数科では、少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図る。	○自分の考えたことや思ったことを話したり、相手の話を聞いて考えを受け取ったりできるようにする。 ○理科では、体験活動を取り入れ、興味をもち、進んで問題解決しようとする態度を養う。
4年	問題発見・解決力 自分づくりに 関する力 グローバル化の 中で生きる力	○各教科、知識技能の確実な定着を図るとともに、学びを深めることができるよう、個の実態に応じた最適手立て (ICT 機器利用を含む) を工夫する。また、できるようになったことのメタ認知を促す。 ○基盤となる国語力の向上および、各教科において、課題解決型のプロセスを意識した深い学びを積み重ねる。	○何を理解し、何ができるようになったのか、また、その能力をどう生かせるのかを考えたうえで、自信をもって表現できるよう、課題解決のプロセスや必要なスキルの習得及び活用を意識づける。 ○外国語に対する苦手意識を少なくし、高学年から始まる英語科に興味関心を高められるようにする。
5年	言語能力 情報活用能力 問題発見・解決力 自分づくりに 関する力 グローバル化の 中で生きる力	○国語では、文章や発話者の伝えたい内容を正しく理解することが出来るようにする。 ○理科では、論理的な考え方の手順を踏まえて実験、観察の計画を立てて実行することが出来るようにする。 ○社会科では、一つの資料を正確に読み取ることが出来るようにする。	○国語では、言語活動の文章形式に合わせて自分の考えを表現できるようにする。 ○理科では、基本的な学習を丁寧に行うとともに自分たちで実験方法を考えるなど、学習意識を高める工夫を行っていく。 ○社会科では、目的に応じて複数の資料をつなげて読み取ることが出来るようにする。
6年	持続可能な社会の 創造に貢献する力	○どの教科においても解釈熟考を繰り返し、自己のメタ認知を促しながら、既習事項を活用して考えを適切に表現する。 ○特に課題のある理科においては、グループごとに実験方法から考えるようにする。	○卒業研究発表をゴールに位置づけ、学びのプロセスに沿った教科横断的な学びを意図的に取り入れていく。
個別	言語能力 情報活用能力	○自立 (朝の会) では、英語と日本語を用いて、司会を進めるようにする。	○考えを整理するために、具体的な例を示すことや視覚化 (文字化・絵図化) する。

支援学級	問題発見・解決 自分づくりに 関する力	○ICT 機器や学校図書館で本を借りたり、地域の人などからインタビューをしたりするなど多様な方法で情報を得る方法を身につけ、司書や ICT 支援員からわかりやすく伝える方法を学ぶことを通して情報活用能力の幅を広げる。	○個々の課題を明確にし、学習形態やツールを工夫して、自分ができる方法で解決する。
専科	言語能力 情報活用能力 問題発見・解決力 自分づくりに 関する力 グローバル化の 中で生きる力	○算数科では、少人数指導を継続して実施し、基礎学力の定着を図る。既習事項を活用し、図式を用いて説明できるようにする。 ○音楽の歌唱に関しては、音程やリズム、強弱記号に気をつけることを基本とし、その上で歌詞の内容を理解し、曲想にふさわしい歌い方を工夫したり、思いや意図をもって響きのある声で表現したりできるようにする。 楽器の演奏については、基本的な演奏の仕方を身に付け、パートの役割や楽器の特徴を生かして全体の響きの美しさを味わいながら演奏できるようにする。	○図工では、感性や想像力を働かせて自分の思いやイメージをもって主体的につくりだす喜びをもつ。 ○家庭科では、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な理解ができるようにする。また、それらに係る技能を体験や実践を通して身に付けられるようにする。日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、様々な解決方法を考えたり、考えたことを表現したりして、課題を解決する力を養う。